

## 深田久弥終焉の地

### 茅ヶ岳（かやがたけ・1704m）登山

GOTOキャンペーンに煽られたわけでもなく、その特典を利用していかないのだが、以前から行きたかった山梨県の茅ヶ岳に登ってきた。出発前に「久弥さんの二の舞にはならないように」とのメールが山歩きクラブのJさんから届いた。そう、茅ヶ岳は「日本百名山」の著者深田久弥氏終焉の地なのだ。

11月16日早朝に発って近鉄とJR中央線を乗り継ぎ、12:18甲府駅着。昇仙峡で紅葉と峡谷美を楽しんで、韮崎のビジネスホテルに宿泊。



#### バスと徒歩で登山口に

翌17日韮崎駅前7:30発の「市民バス」に乗り、7:55柳平下車。「高齢者100円」のバスは大変有難いのだが、残念なことに登山口の深田記念公園までの便は日に3本しかない。やむを得ない。50分間の舗装路歩きの後8:45登山口着。バイオトイレの前には「熊出没・注意」の看板が取り付けられている。

#### カラマツ林の中をゆっくり歩いて

帰りのバスの時刻を確認して、9:00登山開始。道はカラマツとヒノキなどの混交林の中を緩やかに上っている。期待していたカラマツの黄葉はすでに終わっているが、暖かい木洩れ陽を浴びながらの沢沿いの登りは爽快。季節柄咲いている花は無い、春や夏にはどんな花が路傍を飾るのだろう。

途中2度休憩を入れ、10:15女岩着。崩壊のため立入禁止となっており、右側の岩場を登る。ここからは急登だ。ジグザグに登って11:00尾根に出る。展望が開け、二人組がドローンを飛ばしている。何かの調査だろうか。

#### 登山者見守る久弥碑

11:08 深田久弥終焉の碑。意外と小さい。氏は山仲間と登山中に、ここで脳溢血のため急逝したのだ。



↑茅ヶ岳からの南アルプス。右端が甲斐駒

1971年の事、享年68歳。碑に手を合わせて一礼後、山頂めざして再出発。倒れた時、氏はイワカガミについての問答中だったとのこと、もう赤褐色に変わっているイワカガミの葉が、晩秋の陽光に映えてテカテカと光っている。

#### 茅ヶ岳山頂からの大展望

11:45 茅ヶ岳山頂。10名前後の人々が昼食と大パノラマを楽しんでいる。悠揚として聳える富士山、その西には南アルプスの峰々、鳳凰三山の間に白雪の頂を見せているのは間(あい)の岳など白根三山だ。さらに頭(こうべ)をめぐらせると八ヶ岳連峰の雄姿が、そして金峰山が大きく迫り、その横に幾つもの鋭い岩峰を光らせているのは瑞牆(みずがき)山だ。

懐かしい山々を眺めながら昼食を済ませ、立ち去りがたい思いを振り切つて、尾根ルートを辿って下山。緩急織り交ぜての長い下りだった。

## ツバキの話③

### セミの抜け殻を知らなかったスウェーデンの青年

もう30年前の話だが、長崎で行われた原水爆禁止世界大会に奈良県代表団の一員として参加した折、私は団の許しを得て、市内にある実家に一泊した。そこにはスウェーデン代表の一人も民泊していた。「北の巨人」という語がぴったりの偉丈夫で、知的で明るい青年だった。

翌朝、庭に出ると、その巨漢が驚愕の表情で庭木の幹を指さしている。見ると大きなセミの抜け殻だ。手に取って見せると、まじまじと見つめて「何だ」と訊いてくる。残念ながら私の語学力では納得してもらえなかった。しかしなぜ、知的な青年がセミを知らないのだろうか。

のちに、ヨーロッパ北部にはセミがない事（正確にはヤマチッチゼミという小さな種が一部には棲んでいるらしい）を知って、やっと私の方が納得した。ファーブルも「昆虫記」セミの項で「パリにはセミが居ない」ことに触れている。

### ではヨーロッパでの植物の多様性は

こうした昆虫も含む全生物の基盤とも言うべき植物の多様性はヨーロッパではどうだろうか。ネット上の「カントーの樹木医ブログ」で、「日本とヨーロッパの植生の違い」を論じたものがあつたので、そこから引用させてもらうこととした。

面積ではヨーロッパは日本の約27倍。日本の高等植物（シダ植物＋種子植物）は約5600種（そのうち日本固有種1950種）、一方ヨーロッパでの高等植物は約2000種。また、東京の高尾山だけで約1200種なのに対しイギリス全土で1500種。この大きな違いはなぜなのだろう。

### 地理的条件の違い

もちろん緯度の差も大きな要因。北海道・旭川は北緯43.77、それに比してパリ48.58、ロンドン51、ベルリン52、ストックホルム59。このようにヨーロッパ北部は北海道よりも北にあるのだ。

また日本が島国であり、同時に山国であること、しかも亜熱帯、温帯、亜寒帯にまたがっていることなどが、多種多様な植物を育てていると言えよう。



山茶花 12月

↑サザンカ（ツバキ科ツバキ属）写真は故澤木仁さん。

### 地球史上の要因

地球はこれまで氷期（寒冷な気候と氷河の発達）と間氷期（穏やかな気候）とが繰り返されてきたとされ、最後の氷期は約11万年前に始まり、約15000年前に終わったとされている。この氷期の間、イギリス全土を含むヨーロッパ北部は氷河に覆われており、その間に多くの植物種が絶滅したと考えられている。

### 「椿ブーム」の背景に植生の違い？

オペラ「つばき姫」を生んだ西洋のツバキブーム。その背景にはこうし

↑八重咲のサザンカ（澤木仁さん二上山で） た植生の違いがあつたのではないだろうか。先日テレビの旅番組でフランスの家庭庭園に斑入りのアオキが植えてあるのを見た。このアオキも江戸末期、日本からヨーロッパに持ち込まれて、歓迎された植物。ツバキ同様光沢のある濃緑の葉を年中茂らせ、これまた光沢のある赤く美しい楕円球の実を稔らせる。

### 改めて思う、日本の自然の大切さ

テレビ等で紹介される世界各地の自然の絶景も素晴らしいが、痛感するのは日本の自然の豊かさ。この宝物を大切に切に思う。前にも書いたが、今、地球史上まれに見る生物種の大絶滅が進んでおり、その大きな原因は人間の活動だ。大げさではなく、地球を守るためにも温暖化阻止の取り組み強化を強く望みたい。

サンコタケ（キノコ・二上山で）⇒

